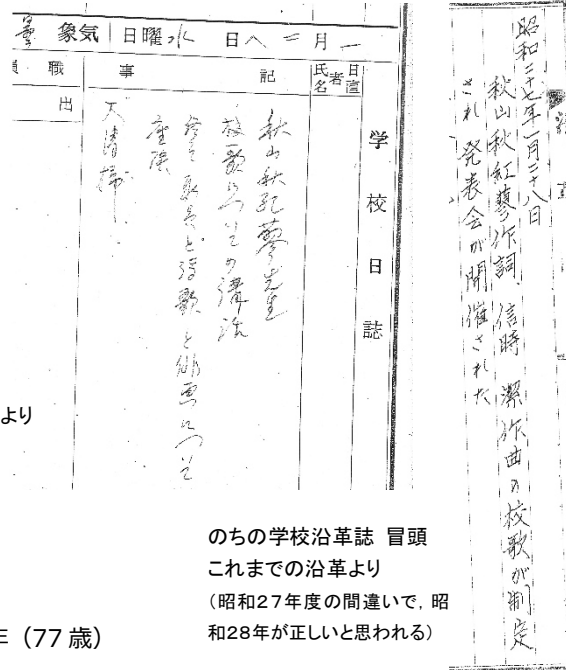


市川高校音楽部顧問 薬袋直哉 先生の講評より

「**鯉沢中学校の校歌**を**信時潔**さんが作曲しているということに驚きました。『海ゆかば』を作曲した人で、**山田耕**作と並ぶ全国区の作曲家です。軍部に利用されたという思いからか、戦後はあまり取り上げられなくなりましたが、本当に有名なすばらしい作曲家です。校歌も多く作曲していますが、そういう方に校歌をお願いするということは、きっと当時の鯉沢中学校に関わる方々の『本気で教育をするぞ』という強い思いがあったからです。今日の合唱には、その願いがつながっている、くみ取って力強く生きているということを感じる、そんな演奏でした。」

校歌制定について、学校沿革誌、当時の学校日誌、三十周年記念誌、五十周年記念誌、鯉沢町誌などを調べてみました。戦後、学校を起ちあげること、近隣に先駆けての校舎建設など、当時の様子から、学校づくりへの熱い思いが感じられました。校歌制定については詳しい記述はなく、昭和27年度に秋山秋紅蓼作詞、信時潔作曲の校歌が制定されたとあった。

(ちなみに秋山秋紅蓼は鯉沢出身の俳人・詩人で、当時67歳)



昭和27年度学校日誌より



信時 潔 (のぶとき きよし)

Wikipedia より

1887 (明 20) 年～1965 (昭 40) 年 (77 歳)

のちの学校沿革誌 冒頭

これまでの沿革より

(昭和27年度の間違いで、昭和28年が正しいと思われる)

大阪府出身。牧師・吉岡弘毅(元津山藩士の外交官で明治初期の日朝外交を担当)の子として生まれ、幼少より賛美歌に親しんだ。大阪の市岡中学を経て、東京音楽学校器楽部および研究科器楽部でチェロを学び、後、同科作曲部に移り、助教授、教授を勤めた。同校の本科作曲部(現東京芸術大学音楽学部作曲科)創設に尽力し、弟子には、片山頼太郎、下総皖一、坂本良隆、橋本國彦、呉泰次郎、細川碧、高田三郎、大中恩、柏木俊夫などがいる。

主な作品には、交声曲『海道東征』、歌曲集『沙羅』、戦時歌謡(国民唱歌)『海ゆかば』(大日本帝国海軍の将官礼式用儀制曲『海ゆかば』とは同名異曲)、ピアノ組曲『木の葉集』、合唱曲『紀の国の歌』、『鎮魂頌』などがある。『沙羅』は現在でも愛唱され、多くの合唱曲も演奏機会が多い。『沙羅』を初めとする歌曲は木下保編曲の合唱曲としても親しまれた(木下は『海道東征』初演時の指揮者でもある)。芸術音楽のみならず文部省唱歌『電車ごっこ』等作曲。戦前戦後を通じて学校の音楽教科書の編纂や監修にも力を注いだ。校歌・社歌・団体歌等の作曲も数多く手がけ、生涯で少なくとも1000曲以上を数える。

シェーンベルクやバルトークなど当時の現代音楽の知識も豊富だったが、実作ではドイツの古典派・ロマン派に基づく簡素で重厚な作風を貫いた。太平洋戦争後は作品数が減るが、これは『海ゆかば』が軍国主義に利用され、学徒出陣の際に用いられたことに対抗できなかったことを恥じたものだとも言われる。同世代の作曲家である山田耕彦とは作風、経歴、戦後の処し方で好対照をなす。

東大合格者数、トップ2である、開成高校、灘高校の校歌も作曲しています。山梨では山梨高校、甲府南中学校などもそのようです。なお、校歌制定時の鯉沢中教頭は保坂梅芳先生でした。県下の多くの学校で校歌を作曲された先生です。

